

交野市文化財調査概要1977-3

郡津郡衙遺跡範囲確認・調査概要

— 交野市郡津所在 —



はじめに

河内北部の三郡のうち交野郡の郡衙が郡津(こうず)にあったとするのは、平尾兵吾説を根拠とする。

現在の郡津の茶屋というところから小径を東進すると段々上りの台地に達する。ここは、小字名を「くらやま」と称するところである。すぐ東隣りに白鳳期の寺院、長宝寺があったと推定されることなどから、この「くらやま」を郡衙推定地とし、50年度に郡衙遺跡範囲確認の発掘調査を行った。この調査によってピットや溝状遺構を検出したが、範囲も狭まかったので、郡衙跡と断定することはできなかった。しかし、これらのものが何にあたるかについて究明する必要があり、引き続き51年度にさらに広範囲の発掘調査を行なったところ、遺物、遺構を検出したものの、なお、郡衙跡と確実に断定するまで至らなかった。

この地域は近いうちに、宅地開発されるだろうことを思うと今後の発掘調査は困難であろうと思われる所以十分に史実を解明できぬまま終つたことは心残りである。

昭和52年3月

交野市教育委員会

教育長 北田甫

例　　言

1. 本書は、交野市教育委員会が、昭和51年度国庫補助事業（総額 2,000,000円）国庫50%府費25%として計画し交野市教育委員会が担当実施した交野市郡津所在の郡津郡衙遺跡範囲確認発掘調査事業の概要報告である。
 2. 調査は、交野市教育委員会の奥野平次、鶴鉢満男を担当者とし、昭和51年8月2日より昭和52年3月31日まで実施した。調査の実施にあたって、大阪府教育委員会の指導を受けるとともに、土地所有者の林正治氏及び中善雄氏、郡津神社氏子の諸氏の御協力を得たほか、交野市古文化同好会、枚方市文化財研究調査会からの多大の援助を受けた。特に銘記して感謝の意を表したい。
 3. 本書作成かつ調査実施にあたって、田村享、森美由紀の学生諸君の援助を得た。記して感謝の意を表したい。
-

郡津郡衙遺跡範囲確認調査概要

第1章 経 過

郡津が古代交野郡の郡衙所在地として考えられたのは平尾兵吾氏が、その著『北河内郡史蹟史話』の中で、郡津のその位置と交通から推定したのが最初である。平尾兵吾氏は、東高野街道、磐船街道、峠崖道等の大通が郡津に集中していること、天野川流域の条里制の中央(五条～六条)に郡津が位置していることを根拠にしている。

昭和35年頃交野市古文化同好会々長奥野平次氏が、郡津神社境内（長宝寺跡）で白鳳期の軒丸瓦を採集している。郡津神社西側の台地一帯は、くらやま（倉山）の地名を残している。郡津は、江戸時代まで「郡門」と書き「こうず」と読ませていたことなど、平尾説を強く裏付けるものといえる。

昨年、国庫補助事業として第一次郡津郡衙跡範囲認調査を実施したが充分な成果を上げることができなかつた。引き続き51年度も補助金事業として、第2次の範囲確認調査を実施した。これはその調査概要である。

第2章 調査日誌

- 8月2日 器材運搬。(不足分そろえる。)調査方法打ち合わせ。
- 8月3日 雨の為、作業中止。
- 8月4日 第1、第2トレンチ設定。表土掘り下げ開始。
- 8月5日 雨の為、作業中止。
- 8月6日 前日の雨で流れ込んだ土の排除。第1、2トレンチ掘り下げ。
- 8月7日 雨の為、作業中止。
- 8月9日 第1、2トレンチ、表土掘り下げ完了。境内の為、非常に堅くしまっている。
- 8月10日 第1、2トレンチ、第2、3層掘り下げ。
- 8月11日 雨の為、作業中止。
- 8月12日 第1、2トレンチ、第2、3層掘り下げる。第2トレンチ、一部、4層掘り下げ開始。
- 8月13日 第2トレンチ、第4層まで掘り下げ、遺構の確認。褐色砂質土(焼土のような感じである。)
- 8月14日 遺物の検出。溝状遺構の確認。トレンチ北側の遺物は、投げ込まれた状態で出土している。写真撮影の為、遺物の精査。
- 8月16日 第1トレンチ、策4層掘り下げ。
- 8月17日 第1トレンチ、昨日に続き、第4層の掘り下げ、第5層を掘り始める。遺構の確認作業始める。
- 8月18日 第2トレンチ、遺物の精査。
- 8月19日 第2トレンチ、溝状遺構の遺物の精査
- 8月20日 第2トレンチ、昨日にひき続き、溝状遺構の出土遺物の精査。
- 8月21日 第1トレンチ、断面実測。第2トレンチ、溝状遺構掘り下げ。
- 8月23日 第1トレンチ、実測(北断面)第2トレンチ、溝状遺構掘り下げ。
- 8月24日 第2トレンチ、溝状遺構内の遺物の精査。
- 8月25日 第2トレンチ、溝状遺構内の精査。夕方、雨の為、流土多く

- 作業がはからず。
- 8月26日 雨の為、作業中止。
- 8月27日 第2トレンチ、溝状遺構内の遺物の精査。前日の雨で流土多
し。
- 8月28日 雨の為、作業中止。
- 8月30日 雨の為、作業中止。
- 8月31日 雨続きで、作業はかどらず。全員で神社境内、トレンチ周辺
の清掃。
- 9月2日 第1トレンチ、遺構面の清掃。平面実測の割り付け。第2トレンチ、
溝状遺構の遺物の検出作業。
- 9月3日 第1トレンチ、平面実測完了。第2トレンチ、溝状遺構内、
遺物検出作業。
- 9月4日 第1トレンチ、埋めもどし、完了。
- 9月6日 第2トレンチ、溝状遺構内、遺物検出作業。
- 9月7日 第2トレンチ、溝状遺構内の遺物の検出作業。写真撮影の為、
トレンチ内の清掃及び写真撮影。
- 9月8日 第2トレンチ、溝状遺構内の遺物の検出作業。午後、雨の為、
作業中止。
- 9月9日 雨の為、作業中止。
- 9月10日 雨の為、作業中止。
- 9月11日 雨の為、作業中止。
- 9月13日 雨の為、作業中止。
- 9月14日 雨の為、作業中止。
- 9月16日 郡津神社、第2トレンチ内の清掃。第2トレンチ内の排水。
- 9月17日 第2トレンチ、溝状遺構内、遺物検出作業。午後、雨の為、
作業中止。
- 9月18日 第2トレンチ、溝状遺構内の遺物検出作業。ピットの確認と
検出。溝の肩の部分の遺物検出。
- 9月20日 雨の為、作業中止。

- 9月21日 第2トレンチの溝状遺構の出土遺物の検出及び写真撮影。北端のピットの確認を行う。
- 9月22日 溝状遺構内の出土遺物の検出作業。北側のピットの確認と検出。
- 9月24日 第2トレンチ、平面実測の割り付け。溝状遺構内の出土遺物の実測。断面実測。平板測量。第3トレンチ、掘り下げ及び遺構の確認。
- 9月25日 第2トレンチ、出土遺物と平面の実測。
- 9月27日 雨の為、作業中止。
- 9月28日 第2トレンチ、平面、出土遺物の実測。第3トレンチ、遺構の掘り下げ、北、南端の落ち込みの追求。
- 9月29日 第3トレンチ、東断面実測、写真撮影。第2トレンチ、溝状遺構内、遺物実測完了。遺物取り上げ始める。平面図レベル記入。
- 9月30日 第2トレンチ、出土遺物の取り上げ作業。平面、断面の残りの仕上げ、埋めもどし開始。第3トレンチ、平面、断面の実測。埋めもどし完了。
- 12月9日 児童公園内発掘の為、立ち入禁止の準備、器材の運搬。午後より発掘開始。トレンチの設定(50年の続きで第5トレンチより順にNo.をつける) 50年度、発掘時のピット(第4トレンチ)の再確認。
- 12月10日 第4トレンチの盛土を掘り下げる。
- 12月11日 第4、第5トレンチの盛土の除去(盛土の厚さ約40cm)第4トレンチ 表土下約15cmから東西の方向に落ち込み端が、確認された。
- 12月13日 第6、7トレンチを設定。第7トレンチの西側が、一段高くなっている、基壇の一部か? 第7トレンチに平行して、北側にトレンチを設定し、続きを確認する予定。第4トレンチ南で、ピットを確認し、西側に拡張する。

- 12月14日 第4トレンチのピットの追求。これは、さらに西側に続いており、溝状遺構になるか、もしくは、柱穴の建てましか？第6トレンチ、溝状遺構を確認。第8トレンチ、設定、掘り下げ。
- 12月15日 第9、10トレンチ設定。第9トレンチ、表土下約20cmで赤色土瓦質の便器状の甕（直径50cm）を検出、掘り方の確認。第10トレンチ、擾乱、深さ40cm、第6トレンチ、地山の検出。
- 12月16日 第9トレンチで、検出された瓦質の甕の精査。第10トレンチ、地山面まで掘り下げ。第5トレンチ、地山面まで掘り下げ。
- 12月17日 第9トレンチ、新たにピット検出、ピットより西側は落ち込んでいる。瓦質の甕より東側20cmの所でピット確認、掘り下げ完了。第10トレンチ、西側に基地の面を残し、平面で、溝状遺構検出。第5トレンチ、西側にもその続きと思われる壇状検出。
- 12月18日 第9トレンチで検出された、柱穴の続きを確認する為、北側に第11、第12トレンチを設定する。第11トレンチ、表土下20cmで、半分擾乱を受けているピットを確認、その検出にかかる。第8トレンチの基壇と推定される両端を確認するため、同トレンチ横に、第13トレンチを設定、その追求にかかる。第10トレンチの地山面は、かなり深いので、第9トレンチとの関連を調べるため、第9トレンチを拡張。
- 12月20日 第9トレンチ、擾乱層を掘り下げ、地山の追求。検出ピットの西約30cmから、落ち込んでいる様である。第11トレンチ、検出ピットは深さ約30cm、1辺40cmの方形。第9トレンチのピットと関連がありそうである。第12トレンチ、東端で確認された遺構を検出するため、第8、第13トレンチを接続する。
- 12月21日 第11トレンチで、検出されたピットの続きを追求するため、北東に第14、第15トレンチを設定、その確認をする。第15ト

- トレンチ、地山まで検出。第9トレンチ、西側落ち込み。
各トレンチ断面実測のため、壁削り。
- 12月22日 第9、10トレンチをつなぎ、地山まで掘り下げ、遺構の確認を行う。第5、7、8トレンチ、断面実測の割り付け及び実測。第4トレンチ、精査。第5トレンチ、ピット検出。
- 12月23日 第4、5、7、8、12、13トレンチ、断面実測、第9、10トレンチ、精査。第11トレンチ、精査。
- 12月24日 第7、8、12、13トレンチ、平面実測。第4トレンチ、断面実測。第9、10トレンチ、精査。
- 12月25日 第4、5、6、8、9、10、11、12、各トレンチ埋め戻し作業。第4、6、9、10、11、12トレンチ、平面実測。第9、10トレンチ、断面実測。第9トレンチ、出土遺物の写真撮影及び実測、ピットの検出及び写真撮影、実測。
- 12月27日 雨であつたが、各トレンチ残りの埋め戻し及び清掃を強行する。出土遺物を教育文化会館倉庫へ搬入。
- 1月11日 林氏所有地にて試掘開始。
- 1月12 トレンチ第3層、掘り下げ。郡津神社よりL P運ぶ。ピット1個検出。
- 1月13日 前日にひき続き、第3層掘り下げ断面観察の為、断面を削る。
- 1月14日 トレンチ、東、北、南断面実測。
- 1月17日 第5層平面で、ピット検出。
- 1月18日 第5層、ピットより遺物検出。
- 1月19日 第5層よりピット2個検出。遺構の写真撮影。
- 1月20日 ピット検出の層面を削る。平面実測の為の割付。午後、雨の為、作業中止。
- 1月21日 昨日の雨の排水作業。周辺とトレンチの平板実測。実測風景の写真撮影。
- 1月22日 トレンチ、埋め戻し。
- 1月24日 小字名倉山地区の宅地、調査開始、盛土の除去。
- 1月25日 第4・5層、掘り下げ。遺構の確認。
- 1月26日 断面、平面割り付け及び実測。平板実測。

第3章 調査概要

トレンチ設定 昨年の第1次調査にひきつづき、神社境内にトレンチ1・2を設定した。第1次調査の際、第4トレンチで確認したピットの拡がりを調査するために、境内に隣接する児童公園内にトレンチ3～13を設定した。又、林正治氏及び中善雄氏の好意により、両氏所有の畠地に、トレンチ14・15を設定した。

第1トレンチ 神社本殿前にある倉庫の前に、南北8m×幅1.5mのトレンチを設定する。本トレンチは、昨年行なった第1次調査の第2トレンチ南側において確認された遺構の続きを調べるために設定されたものである。第1層表土、第2層灰黒褐色砂質土、第3層淡褐色砂質土、第4層茶褐色粘質土、第5層褐色粘質土、第6層黄褐色粘質土、第7層淡褐色粘質土、第8層暗茶褐色粘質土、第9層茶褐色土となる。地山は、北から南にゆるく傾斜している。遺構としては、トレンチ北側において、ピット群を検出しているが、その性格は不明であり、さらに、北側において、大ピット1個を検出している。遺物としては、トレンチ北側の擾乱層より廃棄せられた状態で、灯明皿類を検出している。その他、瓦片多数出土している。

第2トレンチ 第1次調査、第3トレンチの溝状遺構の続きを調べる為、南北18m×幅2mのトレンチを神社本殿の土壙に平行して設けた。
東西断面の堆積層は、東側では第1層、表土層、第2層暗黃褐色砂質土層、第3層暗褐色砂質土層で、中央部と

南側で地山面まで擾乱を受けている。

西側第1層、表土層、第2層淡黄褐色砂質土層、第3層暗黃褐色砂質土層、第4層暗茶褐色砂質土層、第5層暗褐色砂質土層、第6層赤褐色砂質土層、第7層茶褐色砂質土層で、北側では、表土から地山面まで約60cm、南側では、表土下約1.2mで地山となっている。遺構は、トレンチ北側で東西方向に幅3m、深さ20cmの溝が検出された。溝内からは、白鳳期の蓮華文軒丸瓦片をはじめ、奈良期から中世に至るまでの平瓦片が、多数出土した。溝内の出土遺物の配置を見ると、上部のものは、雑然となっており投げ込まれた状態であるが、下部のものは、地山面に敷きつめられた状態となっている。

この溝は、1次調査の第3トレンチで検出された溝の続と考えられたが、トレンチ東側で試掘を行った所、この溝の続が確認されず、別のものであると思われる。

ピットは合計13個、検出され、ピットNo.1～No.13とした。ピット5は、一辺約60cm、深さ60cmで暗茶褐色砂質土が、混入していた。遺物は、縄蓆文の平瓦片が數点検出された。ピットの底からは、縦20cm横15cmの花崗岩質の石材が敷かれており、根石であろうと推定される。これにつながるピットを追求したが、建物跡の1ピット群は、このトレンチからは確認できなかった。北端のトレンチ拡張部から検出されたピット10は、上層は擾乱土で、下層は、褐色の焼土となっている。底面には、消し炭が全面敷かれており、一辺10cmの花崗岩質の石材が検出された。土層の擾乱土から、石仏の下部が発見された。遺物は、瓦器片と灯明皿片が数多く出土した。これは、炉跡かと推定されたが、東側半分が配水管工事の際、壊されており、その全容をつかむことができなかった。

第3 トレンチ 南北6m×幅1.5mのトレンチを、神社本殿西に設定。

層位は、第1層表土、第2層攪乱層、第3層暗褐色砂質土層、第4層赤黄褐色砂質土層、第5層赤褐色砂質土層である。北端において、溝状遺構を検出しており溝は東西に走り、幅約60cm、深さ40cmである。溝内には、瓦片、瓦器片が出土している。さらに、溝の北に落ち込みが確認されているが、その性格は、不明である。

第4 トレンチ 児童公園の東端に、南北6m×幅2mのトレンチを設定する。層位は、第1層表土、第2層赤褐色砂質土層、第3層淡赤色砂質土層となる。表土下約15cmから東西方向に走る深さ10cmの、落ち込みが確認され、その落ち込みの北側は平坦面をなしており、ピット1個を確認した。遺物としては、第4トレンチ南方向に拡張した所より瓦片が出土している。

第5 トレンチ 耕土から地山まで、黄褐色砂質土層で地山まで攪乱されており、トレンチ東西壁付近で地山は、急傾斜している。東西の落ち込みを、断面で見ると、地山のコーナーが丸くなっている、東西の落ち込みが結びつくと思われるが、樹木のために、確認はできなかった。平面でとらえた遺構としては、ピット2個検出、だが、他のトレンチで検出している遺構と関係あるものなのか、不明である。

第6 トレンチ 児童公園の北端に、東西3.5m×幅2mのトレンチを設定する。層位は、第1層表土、第2層赤褐色砂質土層、第3層褐色砂質土層となる。トレンチ中央部において、南北に走る幅1m、深さ20cmの溝状遺構を検出する。さらに、トレンチ南側において、直径1m、深さ30cmの2段になったピットを検出した。この溝状遺構とピットの関連については、不明である。

第7トレンチ 児童公園内に、東西約5m×幅約1mのトレンチを設定した。南北両断面の堆積層を観察すると、第1層から第5層まですべてが攪乱層となっている。西側で表土から地山面までは、約70cmとなっており、西から東へと落ち込んでいる。遺物は、各攪乱層内から、平瓦が数点出土した。遺構は、基壇状のものが検出されている。

第8トレンチ このトレンチは、第7トレンチで基壇状のものを検出したので、東西のコーナーを追求するため、長さ約3m×1.5mのトレンチを設定した。トレンチの西端、耕土下20cmで地山を検出。さらに、北東へ掘り下げていくと、堆積層は攪乱しており、又、新しい瓦が多数出土している。しかし、南側断面で観察すると、落ち込んでいるところへ投げ込まれた状態で出土している。

第9・10トレンチ

児童公園南端に設定した東西9m×幅1.5mのトレンチである。この断面の堆積層は、攪乱を受けている為南北で異なっており、南断面で観察すると、第1層耕土、第2層黄褐色粘質土層、第3層灰褐色粘質土層、第4層黄褐色砂質土層、第5層灰黄褐色粘質土層で、ブロック状の層位が入り込んでいる。東側第1層耕土下40cmで地山となり、西側耕土下1.9mで地山となっている。東側の高い地山では瓦質の甕が出土しており、周辺には4個のピット（ピットA一辺60cm・ピットB一辺50cmの大きさ）も検出しているために、建て物の跡と推測して、トレンチをL字形に延長した結果、さらに、ピット1個（一辺65cmの大きさ）を確認する。東側から西に地山が急に落ち込んでおり、その部分に第3、4、5層が堆積していて、掘り下たところ、溝の斜面にピットを新たに確認する。溝からは、かなりの瓦と須恵質の鉢が出土しており、

この溝は南北にのび、その南端付近で、やや西の方向に屈曲している。溝付近の地山は、北東に高く、南西に低い傾斜をもつ延長上の断面には、何ら溝に接続すると思われる状況が認められず、溝は、北断面からやや南西に延びる位置で終ってしまう可能性もあるために、第10トレンチを延長したけれど、遺構は確認されなかった。

第11・12トレンチ

これらのトレンチは、第9トレンチで確認したピットの続き状態を調べるために、設定したものである。第11トレンチからは、直径50cm、深さ30cmのピットが検出され、又第12トレンチにおいては、約30cmの落ち込みが確認された。これらのピットは、一群のものと考えられ、建物跡の可能性はあるが、遺物等もなく、植木等により調査不可能であったために、はっきりとした性格は不明である。

第14トレンチ

下水工事で、発見された白鳳時代の単弁軒丸瓦が、出土した周辺1個所に東西約4m×幅1.5mのトレンチを設定した。北側断面で観察すると、堆積層第1層表土、第2層黒褐色砂質土層、第3層黄褐色砂質土層、第4層淡茶褐色砂質土層、第5層黄茶褐色砂質土層、第6層茶褐色砂質土層、第7層褐色砂質土層、第8層茶褐色砂質土層、地山となっている。トレンチ中央でピットを3個検出したが、出土物もなく、東断面に直径幅65cm、深さ約32cmの落ち込みを検出。落ち込みのコーナーが丸くなっていて、底が灰色粘質土層であり、水をためていた所と思われる。

第15トレンチ

通称倉山と呼ばれる地域の家屋の庭に、一辺2m×2mのトレンチを設定した。各断面の堆積層は、第1層耕作土、第2層床上、第3層茶褐色砂質粘質土、第4層黄茶

褐色粘質土層、第5層黄灰褐色粘質土層である。第3層と第4層が、遺物包含層となっている。第3層からは、燈明皿片、瓦器片が数点、第4層からは、繩蓆文及びたたき目文の平瓦片が数点出土している。遺構としては、トレンチ南端で、落ち込みが確認されたが、何分、家屋の庭であるため制限があり、これ以上拡張することができなかつた。

第4章　ま　と　め

今回の発掘調査は、前年度第1次範囲確認調査に続き、第二次範囲確認調査として実施した。昨年と同様に、水田、畑地等に利用されており、トレンチの設定に多くの制限があったが、郡津神社南西約1kmの所に第14～15トレンチ、神社、公園内に第1～13のトレンチを設定することができた。

第7～8トレンチに於いて、基壇の一部と推定される落ち込みの検出、第9～13トレンチで一辺約40cm、深さ約40cmのピットが検出されるなど、一応の成果はあるが、公園内の樹木等の為、広範囲の発掘が不可能であり、それらの造構の性格を確認することができなかつた。また出土遺物についても、公園内の各トレンチとも、表土より地山まで擾乱されており、須恵質の土器片、燈明皿片が小量出土した他は、丸瓦、平瓦の出土のみである。

2回にわたる確認調査においても、郡術跡、長宝寺跡と断定できる造構の検出はできなかつた。今後は、調査地域を郡津神社南西部に広がる丘陵上に移し、第三次確認調査を実施したいと思っている。

第5章 調査メンバー

事務局

奥野平次

片岡弘和

鶴飼満男

調査員

河辺和文

塙山則之

青木 稔

調査補助員

矢寺直行

後藤幸隆

松宮義弘

学生アルバイト

馬場次男

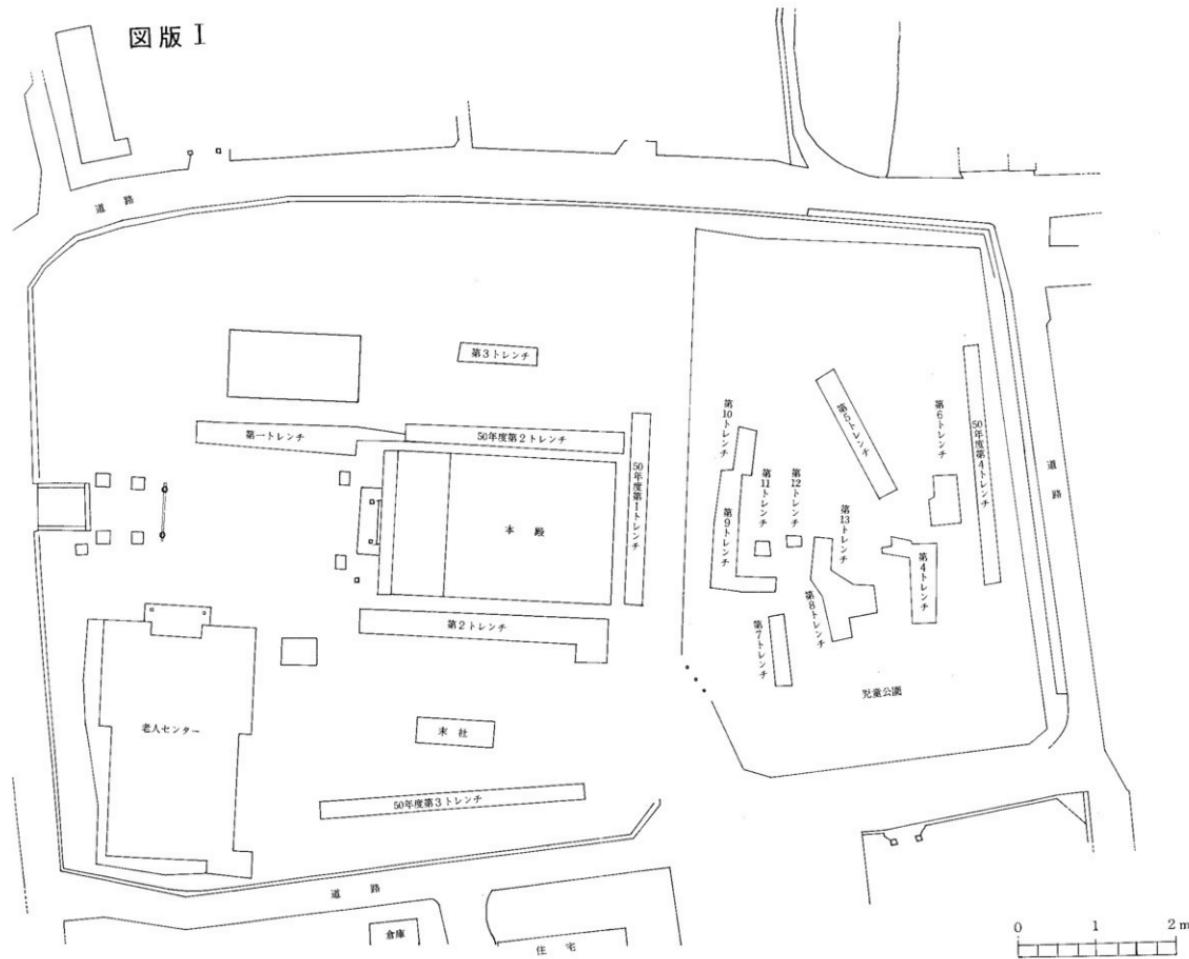
西村智嗣

田中久雄

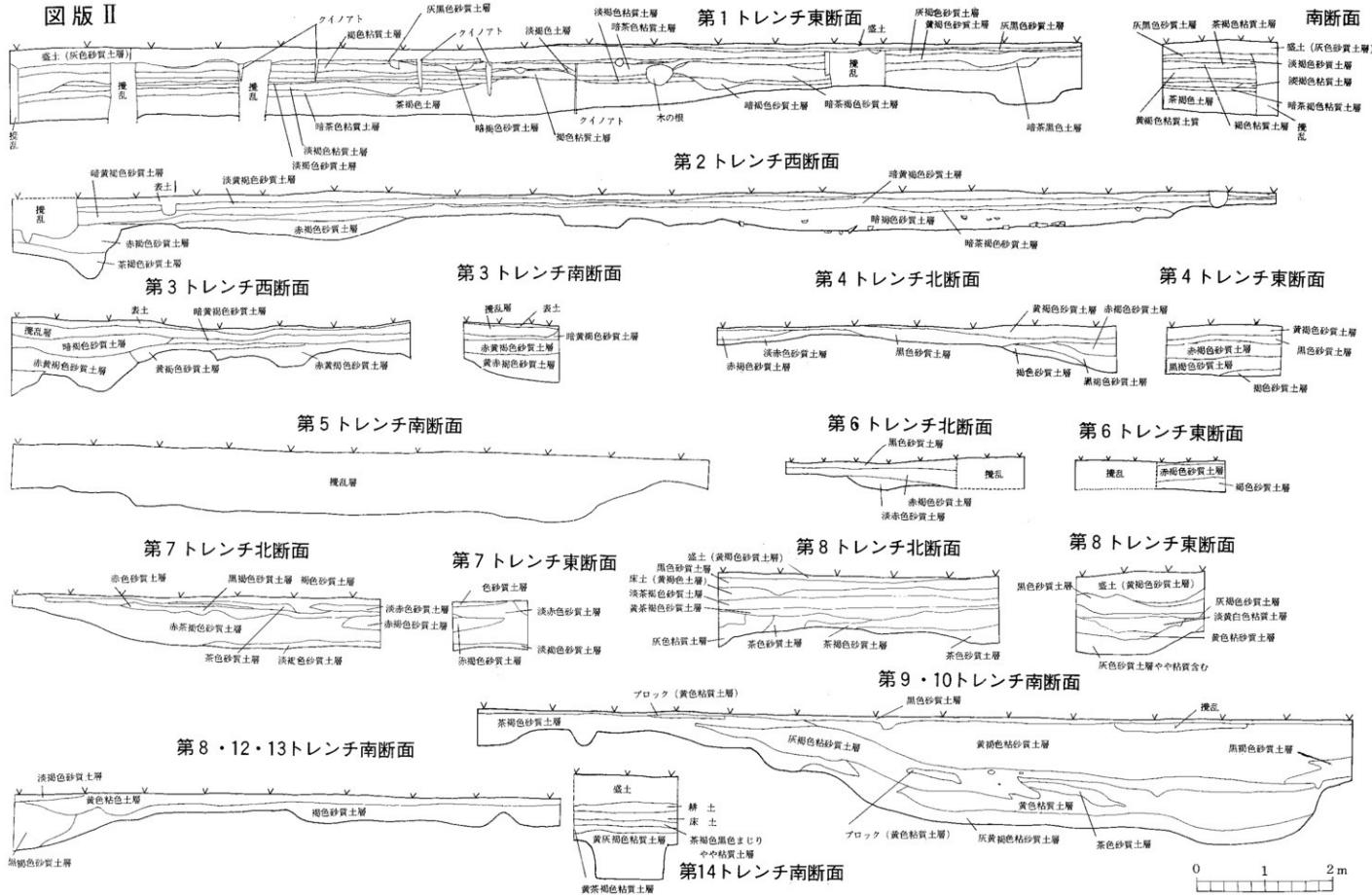
宇野徹

図 版

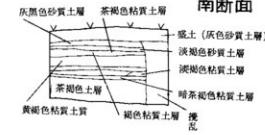
図版 I



図版 II



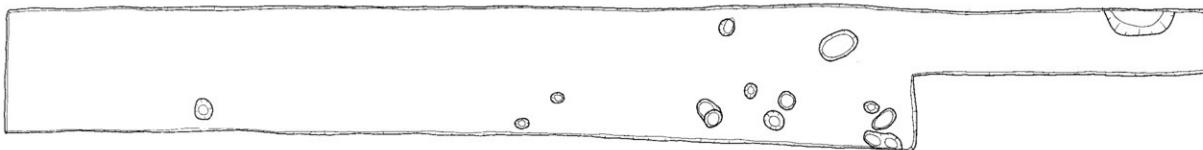
南断面



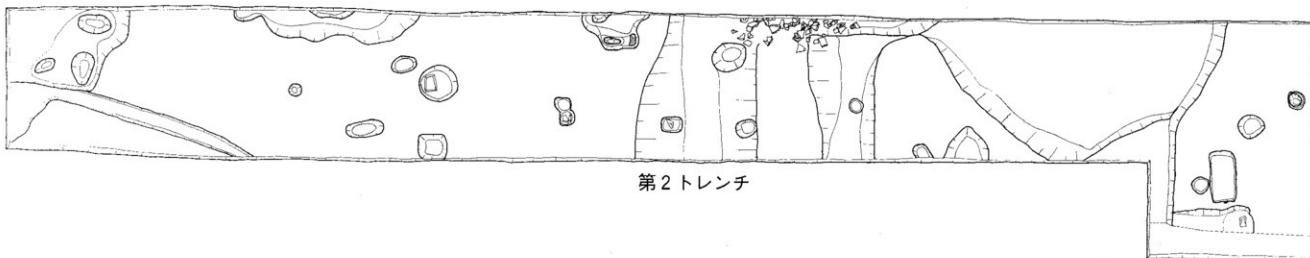
0
1
2m

図版Ⅲ

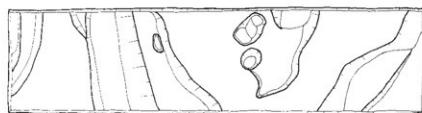
第1トレンチ



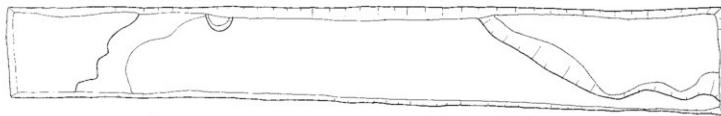
第2トレンチ



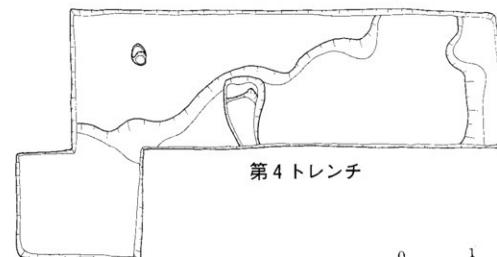
第3トレンチ



第5トレンチ



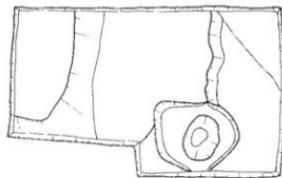
第4トレンチ



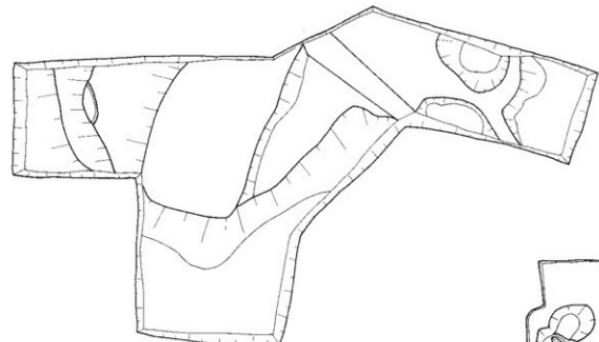
0 1 2 m

図版IV

第6トレンチ



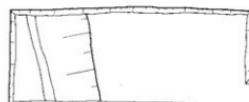
第8・13トレンチ



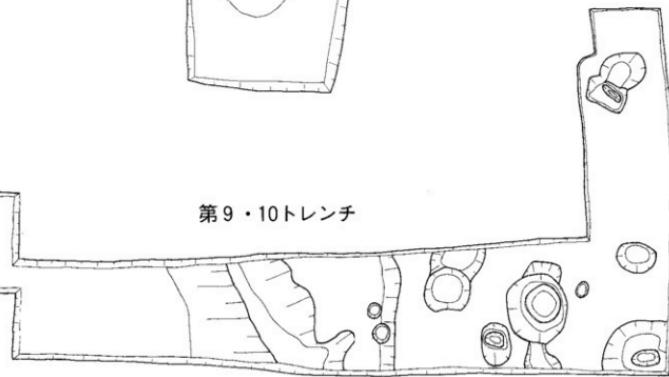
第7トレンチ



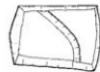
第11トレンチ



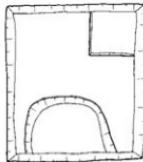
第9・10トレンチ



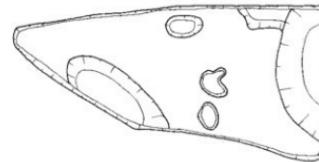
第12トレンチ



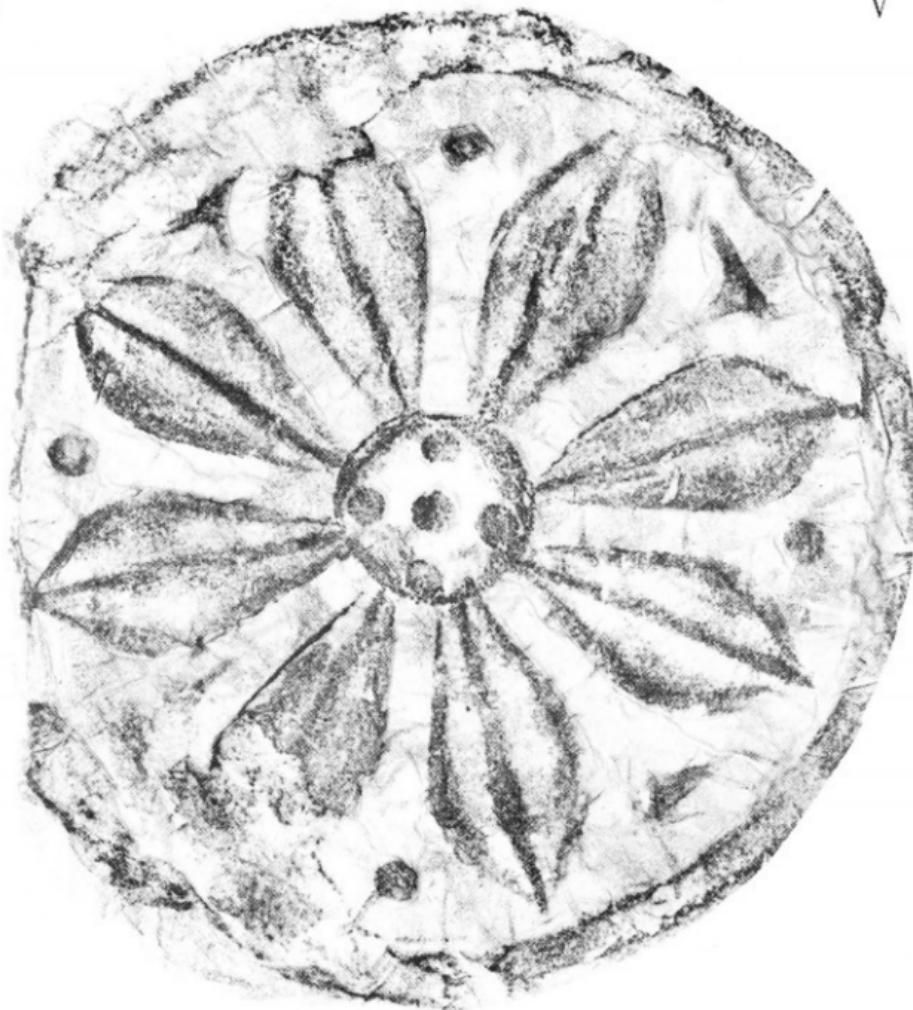
第14トレンチ



第15トレンチ



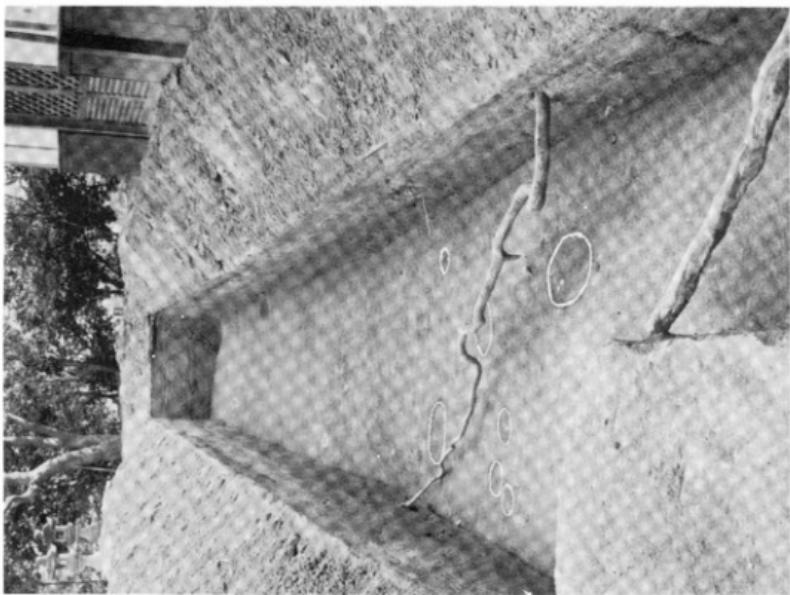
0 1 2 m



都津小前排水管埋設工事現場出土



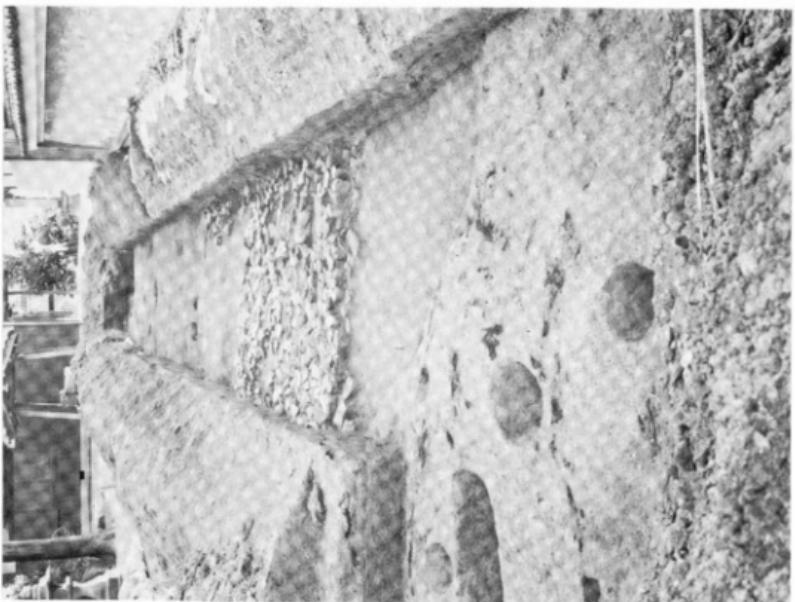
第2 レンチ出土



第1トレンチ



第3トレンチ



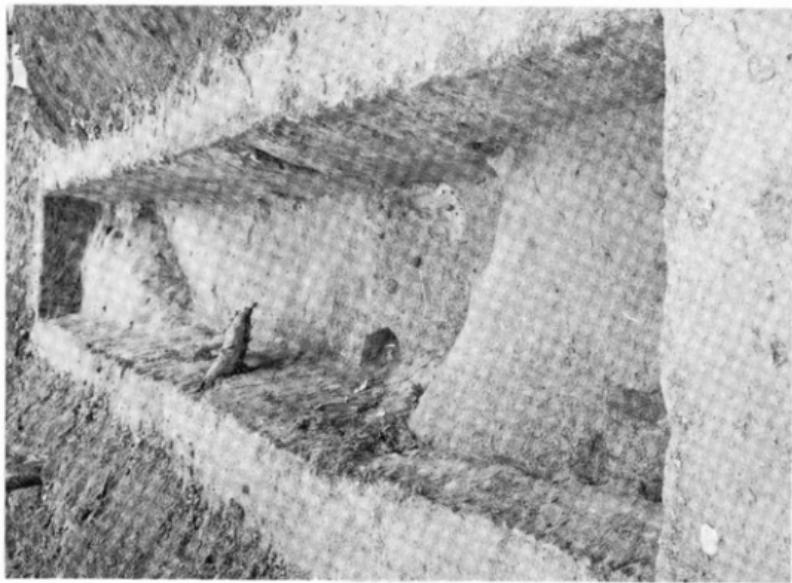
第2トレンチ遺物出土状況



第2トレンチ



第4トレンチ



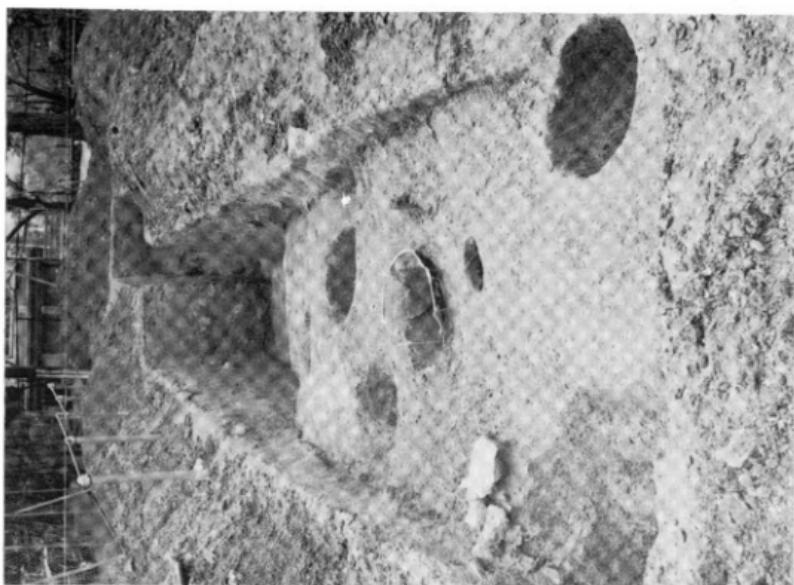
第5トレンチ



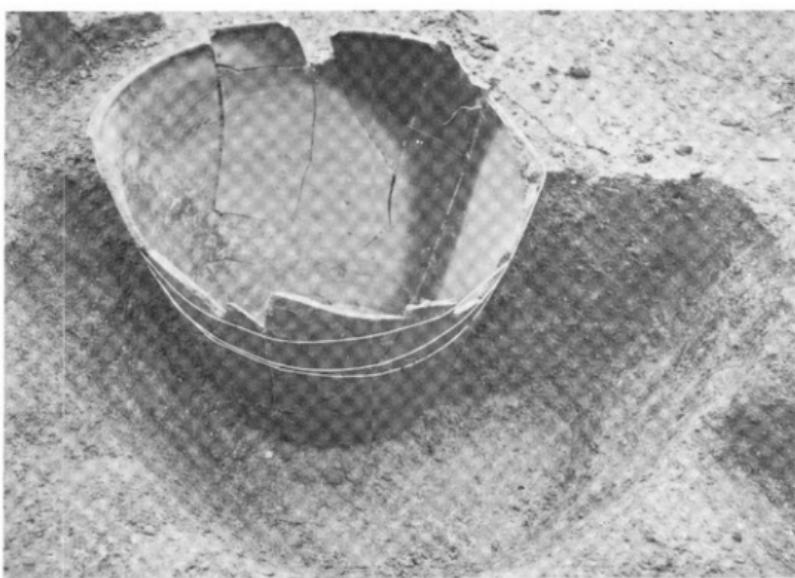
第7トレンチ



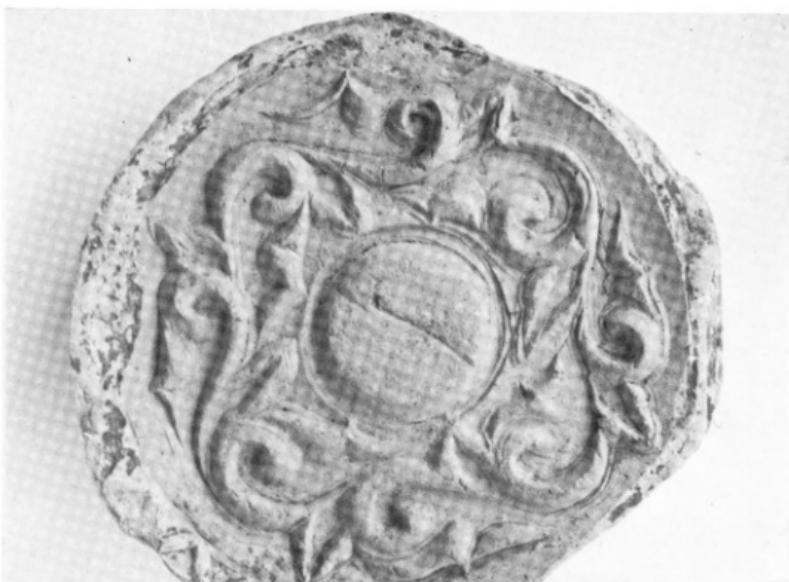
第8・13トレンチ



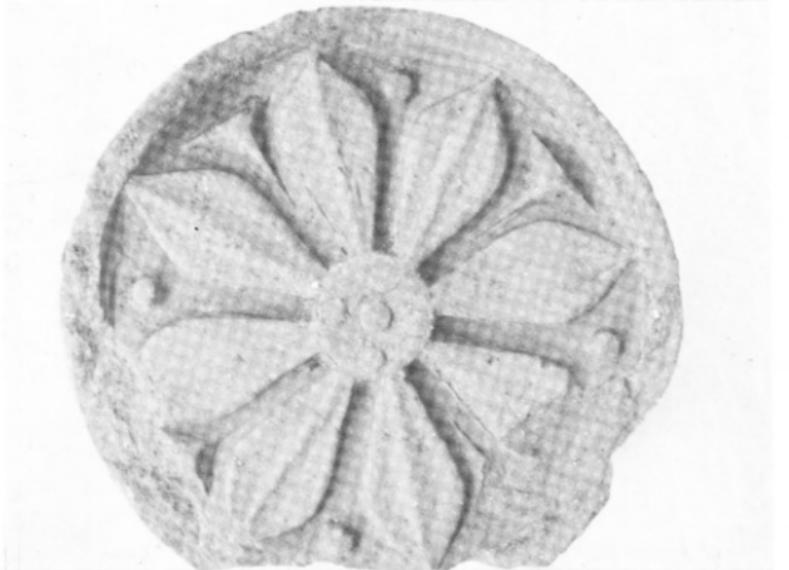
第9・10トレンチ



第9トレンチ出土遺物



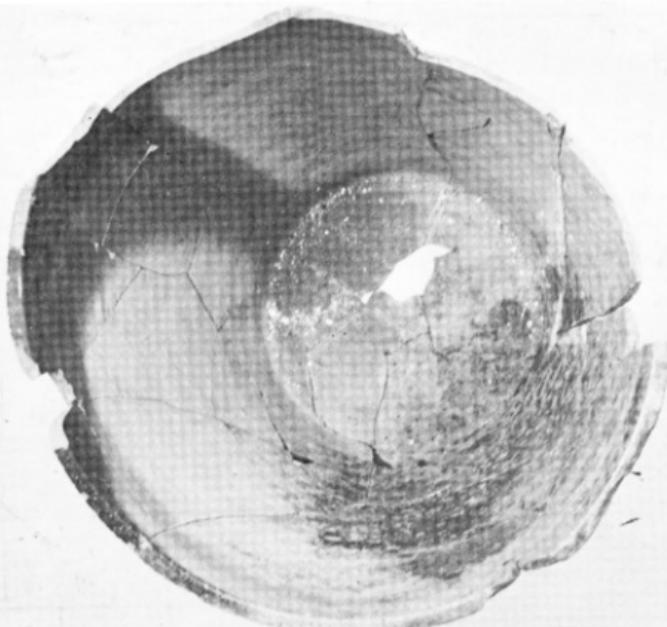
第2 トレンチ出土遺物



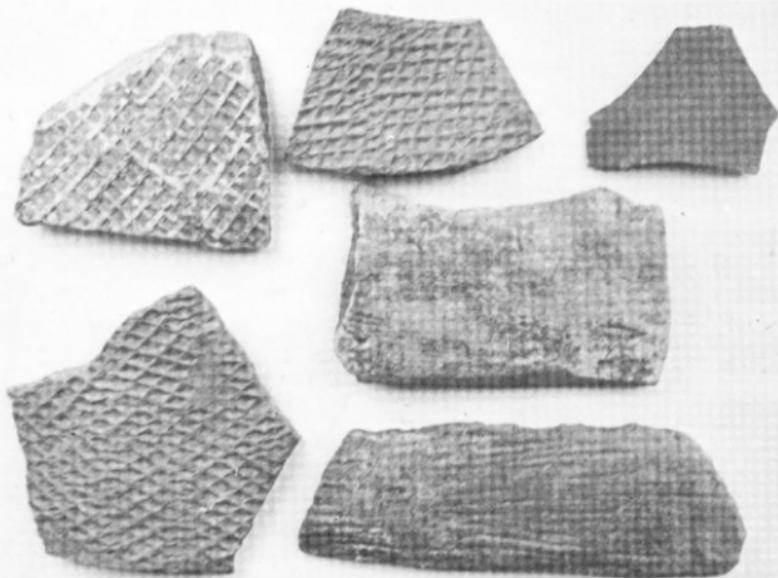
郡津小前排水管理設工事現場出土



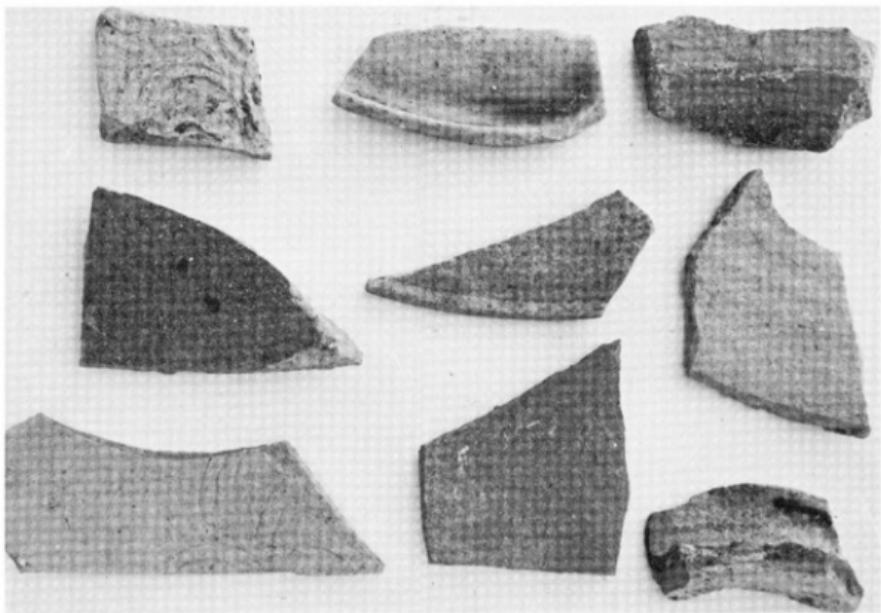
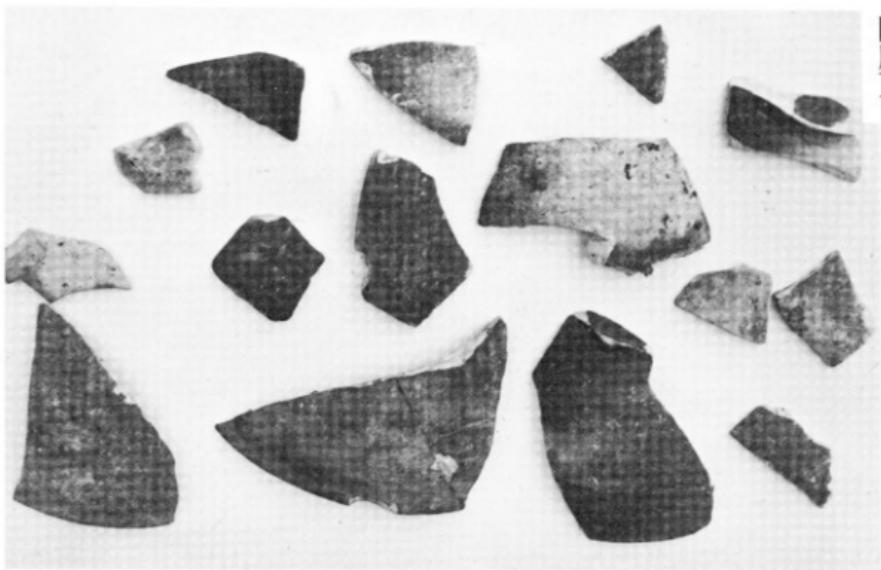
第9 トレンチ出土遺物



第9 トレンチ出土遺物



出土遺物 3



出土遺物 4

